矢部栄子（やべえいこ）俳人。昭和五年三月七日新潟市生れ、二十九年九月十二日歿（二九三〇―五四）。昭和十七年新潟高等女学校入学、十九年学徒動員。翌年結核診断で病部疾患が見つかり、二十一年一月内野療養所に入所。一旦退所し再発、俳句童謡としてその最期まで療養所で過す。二十四年加藤楸邨主宰『寒雷』に参加。〈青桃や今欲しきこころの今告げたし〉は、この薄命俳人の痛切な代表句。

没後出版せられた『青空が流れる―或るたましいの手記』（昭和三十年八月十八日初光社）は、療養生活中の句日誌。